

英語でプレゼン「自己紹介」

大阪府立東百舌鳥高等学校 教諭 稲川 孝司

inagawa@higashimozu.osaka-c.ed.jp

キーワード：オーラル・コミュニケーション、自己紹介、プレゼンテーション、教科横断

1. はじめに

オーラル・コミュニケーションの授業における自己紹介の授業は、多くの生徒が名前と出身地や趣味などを伝えるだけの Pattern Practice になってしまい、コミュニケーションにならないという問題点がある。そこで、変化のある授業をすべく英語科と情報科が協力して ICT を活用した自己紹介プレゼンテーション授業を計画した。授業を実施するに当たり、それぞれの教科目標を確認して相互の共通内容を洗い出し、どのようにすれば互いに連携してより高い目標を達成できるかを検討し、授業の展開方法を打ち合わせた。そして、教科横断型授業として、英語では自己紹介についてのプレゼンテーション例を示してワークシートを作成し、情報ではそれに地図や絵を加えてデジタル化し、さらに話すためのスクリプトを考え、ペア・ワークではなくプロジェクトで資料を投影して全体に発表する形式の授業を行った。

2. 授業の流れ

2.1 教科横断授業のきっかけ

現行の学習指導要領の教科情報の目標で「情報科での学習が他の各教科・科目の学習に役立つよう他の各教科・科目との連携を図ること」と、「各教科で積極的にコンピュータを活用して授業を行うこと」となっていることを受けて、教科情報では他教科の学習に役立つ授業を行うことが求められている。

そこで、ICT を活用してコミュニケーション能力を高める授業を情報科と英語科で協力して行うことにした。教科を横断する授業で学習活動の質を高めるためには、双方の教科が協力して多くの時間をかけて打ち合わせをする必要があるが、単独で授業をするより互いの目標がより高められる授業が可能になるように、ということで計画を進めた。

2.2 授業内容

授業は、英語の授業で単元「日本の休日」について学習した後、自分の好きな休日を入れた自己紹介のためのプレゼンテーション用ワークシートを作成させる。ALT によるプレゼンテーションの手本を見せてから、ワークシート用紙を配布し、名前・クラス・出席番号、自分の住んでいる町の名前、家の付近の地図、好きな休日とその理由を手書きで記入させる。その後提出させて ALT に内容を確認してもらう。授業中にできない箇所は各自が ALT と英語で会話をして、自分の言いたいことを正しい英語表現に直してもらう。

情報の授業ではデータをパソコンに入力する。ここでは各自が同じ内容にならないように、自宅付近の地図と好きな休日に関する写真や絵を貼り付けて英語で

説明する文を追加し、発表資料の作成方法、画像処理の技術、著作権について学び、ワークシートを完成させてソフトの操作方法を学ぶ。

その後リハーサルを行い、発表練習をして内容や表現方法ならびに操作方法のチェックと資料の修正を行なう。そして、本番のプレゼンテーションを行う。本番では、発表内容を評価すると共に、他人の発表の様子を相互評価表に記入し、その生徒の評価を評価点として成績に加えている。

本番終了後には授業で使った英語教材の内容を定期考査に出題して、さらにその定着を図る。



写真1 好きな休日に関する絵を提示・説明

3. プレゼンテーション授業

3.1 学習指導案

題材名：自己紹介プレゼンテーション

題材設定の位置づけ：

- 教材観：英語科と情報科の2つの教科を横断して、ICT を活用した英語の自己紹介プレゼンテーションを行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、自分の考えを適切に伝える能力を養う。また、情報技術を活用する技能の習得を図り、限られた時間の中で英語科と情報科の授業の質をより高めることをねらいとする。
- 生徒観：全体的にまじめであるが、英語が苦手で自信がない生徒が多く、授業において一斉に発声するときや二人会話においても声が小さい。また、自分の考えや伝えたいことを表現するのが苦手で、自己紹介のような授業では他人の文をそのまま使っている場面も見受けられる。
- 指導観：英語によるプレゼンテーションで、全員の前で大きな声を出して自分の意見を述べるのが授業の緊張感を生み出し、そこから生徒の学習意欲の向上につなげたい。また、自分の発表と他人の発表の違いを見つけ、英語での挨拶の方法、表現方法、

語句の使い方、文法など、多くのことに気づき、コミュニケーションの技術を磨けるよう指導する。

指導目標：

I C Tを活用し、日常生活の身近な話題について英語でプレゼンテーションを行って、情報の伝え方や他人の考え方などを理解し、情報を伝えるための基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。また、国際化・情報化社会といわれる現代を生きる生徒に、生きたコミュニケーションを身につけさせ、情報と英語の教科で習得した知識・技能を相互に関連させながら解決する探求的な活動の充実を図る。

評価規準：

- 関心・意欲・態度：自己紹介教材について関心を持ち、I C Tを活用してプレゼンテーション用ソフトのワークシートを意欲的に作成しようとしている。自分自身のことについて積極的に英語で話そうとしている。
- 思考・判断：受け手を意識したワークシートの表現方法を工夫し、どうすればうまく思い通りに表現できるか判断できる。
- 技能・表現：プレゼンテーション用ソフトで資料を作成し、自分で操作して発表できる。自分自身のことについて積極的に英語で発表できる。
- 知識・理解：プレゼンテーションの方法について基本的な知識を身につけている。英語での自己紹介学習を通じて、日本の休日の表現方法から日本と外国の文化の違いを理解している。

授業計画：

- Japanese Holiday についての学習 (O C 1 時間)
- プレゼンテーション用ワークシートの作成 (O C 1 時間)
- コンピュータを使ったワークシートの作成と操作方法の学習 (情報 2 時間)
- 発表リハーサル (情報 1 時間)
- 自己紹介プレゼンテーション (情報 1 時間)
- 記述テスト (O C 0.5 時間)

3. 2 本時の授業 (自己紹介プレゼンテーション)

授業目標：

あいさつから始めて、話すことや発表すること、聞くことを通じて、基本的なコミュニケーション能力を身につける。I C T機器を活用して英語で自己紹介プレゼンテーションすることで、今まで学習してきた表現方法をまとめる。

授業内容：

- 導入 (分)：操作方法の説明と相互評価表の配布 (機器のチェックと操作方法の確認)
- 展開 (40分)：一人1分ずつ発表、他人の評価 (持ち時間が少ないためきばき動くよう指示、次の演者は発表者の横に座わらせる、相互評価表に他人の発表内容を記入させる)
- まとめ (5分)：全体評価、相互評価表の回収

評価内容：

- ソフトウェアの操作ができたか
- 時間内にプレゼンテーションが完了できたか
- 声の大きさは十分か
- 原稿を見ないで発表できたか
- 地図を使って自分の住んでいる場所と付近を表現できるか
- 好きな日本の休日について説明し、関連する写真や絵を説明できるか
- 自分の意見を述べているか
- 他人の発表を聞いて評価しているか



写真2 自宅付近の地図を提示・説明

4. 結果

オーラル・コミュニケーションの自己紹介授業に視覚に訴えるプレゼンテーションの手法を取り入れる事で、生徒がより積極的にコミュニケーションを図ろうとする授業ができた。ペア・ワークではなくクラス全体に対して話をするのが人前で話す体験になり、大きな声を出して話す事が自信につながっていった。スピーチにおいても音読ではなく、聞いている人が理解できるように状況に応じてゆっくり発音したり、身振り手振りを使って自分の伝えたいことを工夫したりして、意欲的に授業に取り組むことができた。

リハーサルをしてから本番のプレゼンテーションというように発表の順序を設定しており、リハーサルで自分の発表がうまくいったかどうかを確認し、他人の発表の様子を見て自ら学んで本番に臨むことで、より良いプレゼンテーションが可能になった。実際、リズムやイントネーションなどの英語独特の特徴や話す速度、声の大きさなどに注意しながら発表したり、話す内容とプレゼンのデータや写真をタイミング良く連携させたりすることで、効果的に情報を伝えることができた。

スムーズに発表した生徒達は、手元のパソコンや原稿を見ずに内容を正確に理解して話すことができており、それが自信となって、その後の英語の授業では積極的に学習に参加している。

このプレゼンテーション授業では伝えたいことが明確であるため、教科情報が単独で授業するより遙かに生徒達は積極的に授業に参加しており、教科横断型の授業として、より高い目標を達成できた。